



中橋

なかはし

10月22日の関目・高殿地区探査も興味深いものがあった。その記録である。

「なかはし」は旧中宮町に流れていた京街道沿いの小川に架かる石橋である。復員幅員1,4m長さ3,2m四隅に疑惑宝珠のある小粒ながらも立派な小橋である。今はそれと教えてもらわないと気のつかない遺跡となっている。もちろん表示板もない。

この橋は昭和9年版の地図(図1)で図中○で示したものと推測した。これは近くを通る城東貨物船・国道架道橋から歩測して200歩約130mであり、地図上の4,5mmとよく符合することで証明される。今は国道商店街で覆われているこの小川も昭和初期までは存在していた。

京街道はその後改修されながら国道となり、この付近では京阪電車と併用していた。更に今の国道1号線が別ルートで開通し都島通となった。商店街とガードに国道の名を残している。

〈草木〉 (※地図の変更に伴い、一部内容を変更)



■ (図1)昭和9年頃の橋の位置(資料:大阪市史編纂所)

■現在、旭区には18橋ある。

(大阪市土木局が管理する橋が17橋あり他に国土交通省が管理する城北橋がある)

■最も古い橋として残っているのが、大正3年に架けられた中橋である。

■高殿4丁目1の大宮東南内代水路という、今は水の無いところに現存している。

■石版橋として長さ3.9メートル、幅1.4メートルの橋である。

■大正3年、旭区はまだ大阪府に属さない東成郡の時代で農業地帯であった。

■大正14年、大阪府に編入され昭和に入ると、耕地地区画整理・土地区画整理が急速に進められ、住宅地・工業地帯へと変貌した時代を過ごしてきた記念碑的な橋である。

■親柱が3本残っている。中橋・大正3年6月・なかはしと刻まれている。

■旭区では親柱は他に、統一樋管水路に架かり大和橋・三郷水路に架かっていた両国橋が記念碑として残っている。

■親柱の名前の彫り方は楷書の漢字・ひらがな、草書の漢字・ひらがなで書くのが一般的であるが、この中橋は建築年を彫りこんである。〈富増〉



■現在の橋の位置



■現存する橋の親柱